

# 第2回 BUG Art Award ファイナリスト展

# BUG

2024.9.25(水) – 10.20(日)

## ご挨拶

株式会社リクルートホールディングスが運営するBUGでは、このたび第2回 BUG Art Awardファイナリスト展を開催します。BUG Art Awardは、制作活動年数10年以下のアーティストを対象に株式会社リクルートホールディングスが運営するアワードです。審査員からのフィードバックの提供や、展示・設営に関する相談会の開催などのサポートを行い、審査過程においてもアーティストの成長に関与していきます。BUGの前進であるガーデン・ガーデンが31年間実施してきた『ひとつぼ展』(1992-2008)、『1\_WALL』(2009-2023)を引き継ぎ、新しい表現への挑戦やアーティストのキャリア形成をバックアップします。

本展は、2024年4～6月に実施した一次審査と二次審査を通過した、応募総数265件から選出された6名のファイナリストによるグループ展です。10月8日(火)にはグランプリ1名を選出するための公開最終審査を行います。グランプリ受賞者は、約1年後にBUGにて個展を開催し、設営撤去を合わせた作品制作費上限300万円と別途アーティストフィーが支給されます。

本アワードでは、展示範囲(床面積9㎡以内)、高さ制限(2.8mの脚立を用いて自身で設営・撤去ができる範囲)、重量制限(床面200kg/㎡、壁面100kg/m)などを厳密に定めています。6名は、二次審査通過後も約3ヶ月間、それぞれのプランに磨きをかけてこの場に臨んでいます。グランプリの獲得を目指す意欲作に、是非ご注目ください。

## ファイナリスト

新井 毬子

岩瀬 海

志村 翔太

城間 雄一

宮林 妃奈子

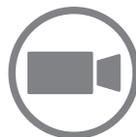
矢野 憩啓

## 公開最終審査

2024年10月8日(火) 15:00-19:30

## オープニングトーク

2024年9月25日(水) 19:00-20:30



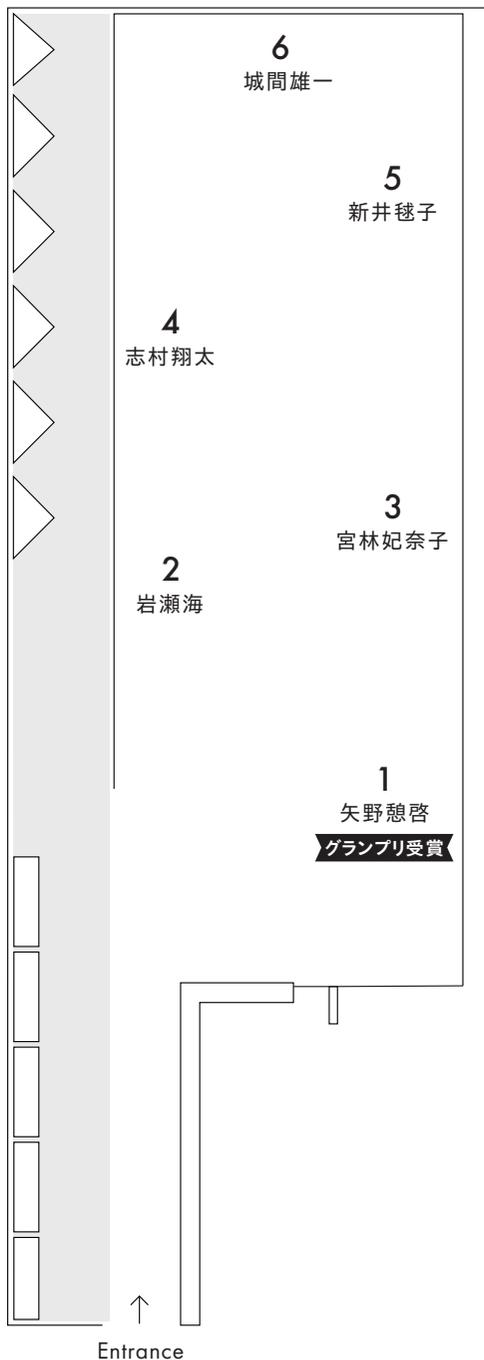
写真・映像撮影OK



お手触れNG



防犯カメラ作動中



## 1：矢野 憩啓／Yasutaka YANO **グランプリ受賞**

2000年生まれ、千葉出身。2023年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻を卒業後、就職。現在千葉で活動中。主に自身の付属する属性や身体、自身の出会った物を絵画に起こし、それらに関わる言語を単語帳というテキストフォーマットにて制作。またそれらを展示する空間を自身で制作し、展示が作品の完成として構成し発表している。

### 主な活動歴：

2023年 「Ongoing祭りー Art Fair Ongoing」 Art Center Ongoing、吉祥寺  
2023年 「GREEN SCREEN」 Penguin's House Green、相模原  
2022年 「Luminous」 多摩美術大学 大学内 東棟 402gallery、八王子

### 主な受賞歴：

2023年 第58回神奈川県美術展 入選

### 「see-through」

2024年 / オイルペインティング、木材、布、単語帳

①作者の属性やそれに関するモチーフ/出会ったものを描いた絵画作品と ②自立した展示空間 ③展示に使われる単語を説明する”単語帳”の3つから構成される展示です。

絵画は作者に付属する属性と出会ったモチーフの輪郭を曖昧にし、単語帳はそのモチーフ・属性・カテゴリーに貼られる単語や言葉の意味を浮遊させます。自身で組み立てた展示空間は、その浮遊した絵画と言語が、漂うように、また自由に出入りできるように組み立てます。

インタビュー



<https://youtu.be/4zr1Nrg28Rc>

## 2：岩瀬 海／Umi IWASE

1998年三重県生まれ。秋田県在住。2023年秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科修了。蟹座。姉が4人と妹が1人。ジェンダーやセクシュアリティを主なテーマに彫刻作品を制作。社会から周縁化された人々と、それらへの暴力について考えています。

### 主な活動歴：

2024年 「Being Belonging」 The side、京都  
2023年 「When we talk about us,」 秋田市文化創造館、秋田  
2022年 「例えば（天気の話をするように痛みについて話せば）」 BIYONG POINT、秋田

### 主な受賞歴：

2023年 「秋田公立美術大学 卒業・修了制作展」 複合芸術研究賞  
2022年 クマ財団6期奨学生 採択  
2022年 「ARTISTS' FAIR KYOTO 2022 マイナビ ART AWARD」 優秀賞

### 「SRS シリーズ」

2024年 / コンクリート、石膏、蠟、人毛、ガーゼ、木、FRP、麻紐、生皮、木、ステンレス、真鍮、虫ピン

応募要項の展示ルールに「床面積9㎡以内」とあり、「上には自由なんや!」と思い高い柱を立ててみることにしました。柱は彫刻作品でありながら、什器としても機能しています。

展示タイトルにあるSRSとはSex Reassignment Surgeryの略称です。

この手術を望む、もしくは望んだ人々を取り巻く複雑な現状について考えています。

インタビュー



<https://youtu.be/zllm1cNDtHl>

### 3: 宮林 妃奈子 / Hinako MIYABAYASHI

1997年北海道出身、東京都在住。2021年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。2023年ベルリン芸術大学美術学部卒業、マイスターシューラー取得。現在、東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻在籍。「描くこと」「描かされること」の関係について、主にペインティング、ドローイング、コラージュ、リトグラフ等、素材や場との対話を重ねることを大切に制作しています。

主な活動歴:

2024年 「project N 93 宮林 妃奈子」東京オペラシティー アートギャラリー、東京  
2024年 「土に隠れた文字のしっぽ」Gallery 38、東京  
2023年 「Hinako Miyabayashi」Galerie Bernd Kugler、インスブルック、オーストリア

主な受賞歴:

2021年 アートアワードトーキョー丸の内 2021 建畠哲賞  
2021年 多摩美術大学卒業制作展 令和2年度 福沢一郎賞

#### 「あいだの手」

2024年 / ジュート、ガーゼ、オーガンジー、紙、油絵具

粗い目の麻布や細やかな綿布、木や紙ひとつひとつの肌理などを「受け止めてくれる手」として絵を描く。自分が手を伸ばし、絵の中に触れ描いているかと思えば、「受け止めてくれる手」はこちらのほうまでやってきて、わたしを受容して解放する。そうして、私たちの手は行き来する。絵と向き合うとき、私たちの周りには空気や広がりがあることを忘れない。身体的な距離はジェスチャーでもなく、温度や湿度を持った空間とともに存在している。

### 4: 志村 翔太 / Shota SHIMURA

1993年生まれ。神奈川県川崎市出身。実家は自営業のクリーニング屋だった。世界旅行、事業開発を経てIAMAS(情報科学芸術大学院大学)博士前期課程に在籍。松尾芭蕉が『奥の細道』の結びの地とした岐阜県大垣市への引越しをきっかけに「モビル文学」シリーズの作品制作を開始。芭蕉の意志を継ぎ世界中の街での発表を志す。

主な活動歴:

2023年 六本木アートナイト2023「都市のいきもの図鑑」六本木ヒルズアリーナ、六本木  
2021年 個展「遊園的明滅展」(坂根大悟とのユニットWeltreisendeとして) 高架画廊、神田  
2020年 「散歩する文学賞」主催

#### 「モビル文学 東京ボーイズアンドガールズ」

2024年 / ビデオ、サウンド、自転車

「モビル文学」シリーズは自転車を使った移動並びに投影技術を文学表現と融合させることを目指し、映像装置に改造した自転車を用いて作品発表場所を舞台に執筆した小説をキャンバスとしての街に描き出す連作です。本作「モビル文学 東京ボーイズアンドガールズ」では、BUG 周辺の有楽町・銀座・日本橋を舞台に執筆した小説三作を映像として編集し、それぞれの街をサイクリングしながらテキストを投影した様子を展示します。

インタビュー



<https://youtu.be/qhw7Bftt2IY>

### 5: 新井 穂子 / Mariko ARAI

1993年東京都生まれ、在住。東京藝術大学大学院美術研究科修了。ぬいぐるみや人形のような装置を用いて、現代の人間における根源的な行為や欲求を探るようなインスタレーション作品を、既存の社会構造、または民俗などを題材に表現している。

主な活動歴:

2023年 プロジェクト個展「抵抗と受容のパッケージ」西会津中学校、福島  
2023年 グループ展「Identified - 相対的Xと絶対的X -」コートヤードHIROO、東京  
2022年 都美セレクトショングループ展「もののこのしかた」、東京都美術館、東京

主な受賞歴:

2021年 メトロ文化財団賞  
2017年 平成藝術賞

#### 「Scapegoat」

2024年 / ビデオ、サウンド、フェイクファー、綿、実際にある食器棚を模して制作された棚

AI 画像生成によって生まれたテクノロジーにおける新たな妖怪「Entity」(実体を意味する)。イメージの大量の複製、編集、手作りによる制作の過程によって生成された Entity はどこかが何かに類似していると同時に、唯一性を持ち合わせ、オリジナリティが曖昧になっている。類似性、異世界転生、ぬいぐるみ論、女性性 / 男性性など、現代性を含む議論を行う7名3組の可笑しく、繊細で、或いは何の取り留めもない会話劇によって、人間における複雑で曖昧な類似と差異を投影している。

【什器製作】尾前 勇向 【映像設計】田中 小太郎 【制作協力】菅野 歩美 / 古川 智彬 / 茂田 真弓 / 茂田 雅弘 / 宮田 莊平 / 竹下 寛

### 6: 城間 雄一 / Yuichi SHIROMA

1998年埼玉県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画第一研究室在籍。主に茨城県を拠点に活動。

主な活動歴:

2024年 「地とレンズ」Empathy Gallery、東京

主な受賞歴:

2022年 WATOWA ART AWARD 2022 準グランプリ 薄久保香賞 ヒロ杉山賞  
2019年 シェル美術賞2019 入選  
2017年 第27回全日本アートサロン 文部科学大臣賞

#### 「ある座」

2023年 / オイルペインティング

絵画という表現を使い人と人を取り巻く様々な関係性のあり方を、存在のようなものが立ち上がるように制作している。近年ではモチーフとそれが置かれている場に興味を持ち、その曖昧な繋がりを解体したりまたそれを接合したりして絵画空間の研究をしている。一度解体された私たちの情報を少しずつ間違えてパズルのようにはめ直し、違和感を持った一つの塊として絵画の中に表現しようと試みたりもしている。

インタビュー



<https://youtu.be/504jse7wMs8>

インタビュー



<https://youtu.be/0EL-5xgIypQ>

インタビュー



<https://youtu.be/YNcve5sQtuA>

# BUG Art Award 審査の流れ

BUG Art Awardは、審査にまつわる過程でアーティストの成長を支援するアワードです。

## 1 応募

オンライン上のフォームより、応募を受け付けます。 **現在、第3回の応募要項をウェブにて公開中！**

## 2 一次審査

応募資料 (PDF) をもとに審査員が審査を行います。審査員全員でディスカッションを行い、第2回は応募総数265件からセミファイナリスト20名を選出しました。

## 3 展示プラン作成オンラインレクチャー・相談会

展示プランを作成する目的から、具体的な作成方法まで基礎的な内容を説明します。  
また、レクチャー後に、自身でブラッシュアップした展示プランを個別に講師へ相談できる機会を設けています。

## 4 二次審査

審査員と対面で1対1の審査を実施します。  
審査員全員でディスカッションを行いファイナリスト6名 (組) を決定します。二次審査後は結果に関わらず、審査員全員からセミファイナリスト20名 (組) へコメントをお送りします。

## 5 展示位置決めの話し合い

ファイナリスト全員がBUGに集まり、自分の展示プランを紹介し合います。お互いの展示プランを理解した上で話し合いを行い、それぞれの展示スペースを決定します。

## 6 展示シミュレーション・設営方法についての相談会

ファイナリスト展のプランをもとにBUGで展示のシミュレーションを行い、実現方法や設営の進め方などをインストーラー (展示設営の専門家) に相談できる機会です。

## 7 ファイナリスト展 (バグ展)

ファイナリスト6名 (組) によるグループ展を開催します。  
BUGは作品制作費として20万円を支給します。

## 8 公開最終審査

ファイナリスト展の会期中に、グランプリを選出するための最終審査を行い、グランプリ1名 (組) を決定します。  
ファイナリストは今回の展示作品とグランプリを受賞した際の個展プランについて、公開の場でプレゼンテーションを行います。そのプレゼンテーションと展示作品、グランプリ個展プランの3つの要素をもとに審査を行います。

日時: 10月8日 (火) 15:00 - 19:30 (予定) ライブ配信・要予約



## 9 グランプリ受賞者個展

グランプリ受賞者は、約1年後にBUGにて個展を開催します。  
設営撤去をあわせた作品制作費上限300万円と別途アーティストフィーが支給されます。

### 審査員

内海潤也 (石橋財団アーティゾン美術館学芸員)  
菊地敦己 (アートディレクター、グラフィックデザイナー)  
たかくらかずき (アーティスト)  
中川千恵子 (十和田市現代美術館キュレーター)  
横山由季子 (東京国立近代美術館研究員)

### 第2回BUG Art Award ファイナリスト展

会期: 2024年9月25日 (水) - 10月20日 (日)  
主催: BUG

告知物デザイン: 菊地敦己  
翻訳: リリアン・キャンライト、内山もにか、ベン・ケーガン (Art Translators Collective)  
会場映像・スチル撮影、インタビュー撮影: 西野正将  
展示プランアドバイザー: 菅亮平  
展示・設営アドバイザー: 小滝タケル (Square4)  
設営協力: Square4